第５１回全日本空手道選手権大会監督会議資料

令和５年１２月９日（土）・１０日（日）

大会審判長　岡部　茂弘

【競技運営事項】

１．ＩＤカードとメディカルカード

(1)選手、監督はＩＤカード（裏面：メディカルカード）を携行して競技場に入る

(2)審判団はＩＤカードにより選手の本人確認をするが、回収はしない。ただし、メディカルカードにドクターの記載がある場合は、回収してコート主任または副主任が管理し、試合が終了後、選手に返却する。

(3)コート主任は、カード記載がある選手が出場する際、メディカルカードを主審に渡して確認をさせる。

【組手競技】

１．安全具

(1)実施要項「個人戦 15 安全具について」「団体戦 16 安全具について」の記載通りとする。

(2)インステップガードについては、つま先の指が隠れる物のみ使用可とする。

(3)すべの安全具について色が剥げている物の使用は認めない。

(4)女子チェストガードの改造品は認めない。

※安全具、道着等で不備があり２分間ルールを適用した場合、不備が訂正された場合であっても、監督はその試合につくことはできない。

※５年度体重別選手権大会で安全具の不備があったため，監督・コーチは厳重に注意する。

２．ビデオレビュー(VR)

(1)組手団体戦決勝戦及び個人戦準決勝戦と決勝戦で採用する。

(2)VRS は、画面だけでなく競技を視覚でも確認し、判定の参考とする。

(3)画面をコマ送り、静止画、スローモーションにする場合は、抜けているかいないかなど細部の確認をし、それ以外は速度を変えず判定する。

(4)片方のビデオレビューが開始された後は、もう片方はビデオレビューを要求できない。

(5)ビデオレビューが開始されるとは、主審がビデオレビューのジェスチャーを終えた時を言う。

(6)技が確認できない時は、「見えない」ジェスチャーをする。その際、カードは戻される。

(7)要求された技が、得点と判定された技より高い場合もビデオレビューの対象となる。

３．プロテスト

⑴形及び組手用のプロテスト用紙については各コート主任が管理しているため，抗議を行う場合は、できるだけ早くコート主任に申し出る。

⑵抗議を行う場合，５分以内にプロテスト用紙に記入し抗議料 20,000 円を添えてコート主任に渡す。その後コート主任はアピールジュリーの代表者に渡し抗議の正当性について必要と思われる調査を行い、アクセプト（受け入れる）またはデクライン（拒否）を決めるアクセプトの場合は返金され、デクラインの場合は没収される。

４．その他

⑴所属する都道府県選手の審判又は監査を誤って行った場合、その試合は無効とする。

⑵脳震盪には十分に注意すること。

５．確認事項

⑴同ポイントで「先取」が取り消され試合終了となった場合，団体戦先鋒から大将戦の各試合においても１本，技ありを多く取得した選手が勝者となる。

【形競技】

１．　競技運用

⑴予選ラウンド１回戦２回戦は続けて行う。

⑵予選ラウンドで、第１・２指定形の平均点が同点の場合，実施要項記載の手順により勝者を決定する。

⑶準決勝ラウンドの２つのグループ，それぞれ１位の競技者が対戦し，１位と２位の座を競う。２位の競技者は他のグループでの３位の競技者と対戦し，３位の座を競う。

⑷競技者は各ラウンドで異なる形を演武しなければならない。ただし，引き分けの解消による再試合で使用した形は本選で使用できる。

⑸予選ラウンド１回目は第一指定形，２回目は第２指定形の中から選ばなければならない。準決勝ラウンド以降は得意形とする。